

91

午後

◎ 指示があるまで開かないこと。

(平成 20 年 2 月 21 日 13 時 30 分～14 時 30 分)

注 意 事 項

1. 試験問題の数は 30 問で解答時間は正味 1 時間である。
2. 解答方法は次のとおりである。
 - (1) 各問題には 1 から 4 までの四つの答えがあるので、そのうち質問に適した答えを一つ選び、次の例にならって答案用紙に記入すること。

(例) [問題 101] 氏名を変更した場合の保健師助産師看護師法上の手続きで正しいのはどれか。

1. 就業先の長への届出が必要
2. 就業地の市町村長への届出が必要
3. 厚生労働大臣への籍訂正の申請が必要
4. 旧姓を使用して業務を行う場合は手続きは不要

正解は「3」であるから答案用紙の ③ をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101	①	②	③	④
			↓	
101	①	②	●	④

答案用紙②の場合、

101	101
①	①
②	②
③	→ ●
④	④

- (2) 1 問に二つ以上解答した場合は誤りとする。

次の文を読み〔問題1〕、〔問題2〕、〔問題3〕に答えよ。

29歳の初産婦。妊娠32週2日。身長160 cm、体重61 kg(非妊時体重53 kg)。これまでの妊娠経過に異常はない。子宮底長27 cm、腹囲85 cm。血圧136/72 mmHg。尿蛋白(±)、尿糖(-)。Hb 11.3 g/dl、Ht 34.0 %。頭位、児背は母体の左側、胎児心拍数120 bpm、推定児体重1,600 g。AFIは9.2 cmであった。内診所見で子宮口は閉鎖し硬かった。

〔問題 1〕 母体のアセスメントで適切なのはどれか。

1. 正常経過
2. 切迫早産
3. 軽症の貧血
4. 妊娠高血圧症候群

〔問題 2〕 胎児のアセスメントで正しいのはどれか。

1. 羊水過少である。
2. 第2胎向である。
3. 発育は正常である。
4. 胎児心拍数は少ない。

〔問題 3〕 「最近、腰部と背部に痛みがあります。どうしたらよいのでしょうか」と質問があった。

説明で適切なのはどれか。

1. 「背筋を伸ばした姿勢をとるようにしてください」
2. 「柔らかい布団で寝てください」
3. 「ガードルは外してください」
4. 「冷罨法を行ってください」

次の文を読み〔問題4〕、〔問題5〕、〔問題6〕に答えよ。

31歳の初産婦。妊娠39週5日。午後1時に陣痛発来し、当日午後4時に夫婦で来院した。身長160 cm、体重63 kg。内診所見は子宮口2 cm、展退度50 %、Station -3、未破水である。第1頭位、胎児心拍数基線140 bpm、variability(+)、推定児体重3,150 g。陣痛間欠6分、陣痛発作30秒である。

〔問題 4〕 午後6時に食事を勧めるため分娩監視装置をはずした。午後7時、産婦は「腰が痛い。怖い」と不安な表情で助産師にしがみついた。

産婦の訴えを聞いた後、次に助産師がすべき対応で優先度が高いのはどれか。

1. 陣痛を測定する。
2. 腰部温罨法をする。
3. 夫に腰部のマッサージを教える。
4. 産婦のバイタルサインを測定する。

〔問題 5〕 翌日午前4時に破水した。内診所見は子宮口5 cm、展退度100 %、Station +1。陣痛間欠4、5分、陣痛発作40秒。夜間は十分眠れなかった。

産婦への対応で適切なのはどれか。

1. 経過を観察する。
2. 骨盤レントゲン撮影を行う。
3. 産婦に蹲踞位を勧める。
4. 陣痛促進薬を使用する。

〔問題 6〕 午前 11 時に子宮口は全開大した。Station +2、小泉門が先進し産瘤を触知、羊水は黄色である。胎児心拍数基線 150 bpm、variability(+)である。陣痛間欠 2 分、陣痛発作 50 秒で軽い努責感が出現し陣痛間欠期は眠っていた。

産婦への対応で適切なのはどれか。

1. 直ちに帝王切開の準備をする。
2. 吸引分娩の準備をする。
3. 分娩体位をとってバルサルバ法を促す。
4. 側臥位のまま努責感を逃す。

次の文を読み〔問題7〕、〔問題8〕、〔問題9〕に答えよ。

28歳の初産婦。保育士。妊娠11週0日。身長158cm、体重50kg(非妊時体重52kg)。血圧110/60mmHg。尿蛋白(-)、尿糖(-)、尿ケトン(-)。悪心がありムカムカしていることが多く、空腹時や夕方からがつらいと話す。仕事中はつわり症状がないため仕事を続けている。帰宅後は倦怠感が強くほとんど横になって過ごしている。夫は、妊娠したことを喜んでいるが仕事が忙しく休日出勤も多い。

〔問題 7〕 妊婦への保健指導で適切なのはどれか。

1. 食べたい物を食べた方がよい。
2. コーヒー・紅茶の摂取量に制限はない。
3. 運動をして気分転換を図った方がよい。
4. つわりが落ち着くまで仕事を休んだ方がよい。

〔問題 8〕 妊娠26週2日。妊婦健康診査の結果は正常範囲であった。「平日は忙しいけれど、週末はゆっくり休んでいます。赤ちゃんの物は、そろそろ揃えなくちゃと思っています。夜横になっていると、赤ちゃんが動いて痛いぐらいです」と笑顔で話す。来週の日曜日に地域の保健センターの両親学級へ夫婦で参加する予定である。

アセスメントで正しいのはどれか。

1. 出産準備は遅れている。
2. 活動と休息のバランスが悪い。
3. 児に対する愛着が高まっている。
4. 育児に関する知識を得る態度が父親にみられない。

〔問題 9〕 妊娠 30 週 3 日。体重 56 kg。血圧 126/70 mmHg。尿蛋白(－)、尿糖(－)。浮腫(＋)。推定児体重 1,500 g。経腔超音波で子宮頸管長 20 mm。性器出血はない。子宮収縮の自覚は「仕事中はよく張るけど、横になって休めない」と言う。

保健指導で適切なのはどれか。

1. 体重増加があるためエネルギー制限について話す。
2. 血圧が上昇傾向にあるため塩分制限について話す。
3. 子宮内胎児発育遅延のため胎動カウントについて話す。
4. 切迫早産の可能性があるため安静の必要性について話す。

次の文を読み〔問題 10〕、〔問題 11〕、〔問題 12〕に答えよ。

34歳の初産婦。身長 158 cm、非妊時体重 48 kg。特記すべき既往歴はない。家族歴は実母が高血圧治療中である。妊娠 9 週 5 日で 1 絨毛膜 2 羊膜双胎と診断された。

妊娠 30 週 0 日の妊婦健康診査で、体重 65 kg。血圧 136/84 mmHg。尿蛋白(－)、尿糖(－)。浮腫(＋)。第 1 児は骨盤位、推定児体重 1,085 g、AFI 8.3 cm。第 2 児は頭位、推定児体重 963 g、AFI 7.1 cm。胎児心拍は両児とも正常であった。子宮口は閉鎖している。妊娠 28 週で実施した血液検査結果が判明し、Hb 11.0 g/dL、Ht 37 %であった。

〔問題 10〕 アセスメントで正しいのはどれか。

1. 双胎の正常経過
2. 子宮内胎児発育遅延
3. 羊水過少
4. 双胎間輸血症候群

〔問題 11〕 生活指導を行う上で最も考慮すべき合併症はどれか。

1. 妊婦貧血
2. 妊娠肥満
3. 妊娠糖尿病
4. 妊娠高血圧症候群

〔問題 12〕 妊娠 36 週 4 日で陣痛発来し入院した。超音波所見は第 1 児が骨盤位、推定児体重 2,354 g、AFI 7.2 cm。第 2 児が頭位、推定児体重 2,196 g、AFI 7.0 cm である。子宮口は 2 cm 開大、展退度 60 %、Station -3 である。

この時点で予測される分娩方針はどれか。

1. 子宮収縮を抑制する。
2. 経過を観察して経膣分娩を試みる。
3. 陣痛を増強して経膣分娩を試みる。
4. 帝王切開とする。

次の文を読み〔問題 13〕、〔問題 14〕、〔問題 15〕に答えよ。

35歳の初産婦。妊娠40週5日。午前6時に10分間隔の陣痛が開始し午前8時に入院した。入院時の陣痛は間欠6分、発作40秒、頭位で、内診所見は子宮口6cm開大、小泉門が先進し10時の方向に触れた。坐骨棘と恥骨結合後面下1/3が触知できた。産婦は嘔気があり陣痛発作時に声はもれるが、呼吸法で痛みを逃していた。

〔問題 13〕 入院時の骨盤腔内における児頭の位置で正しいのはどれか。

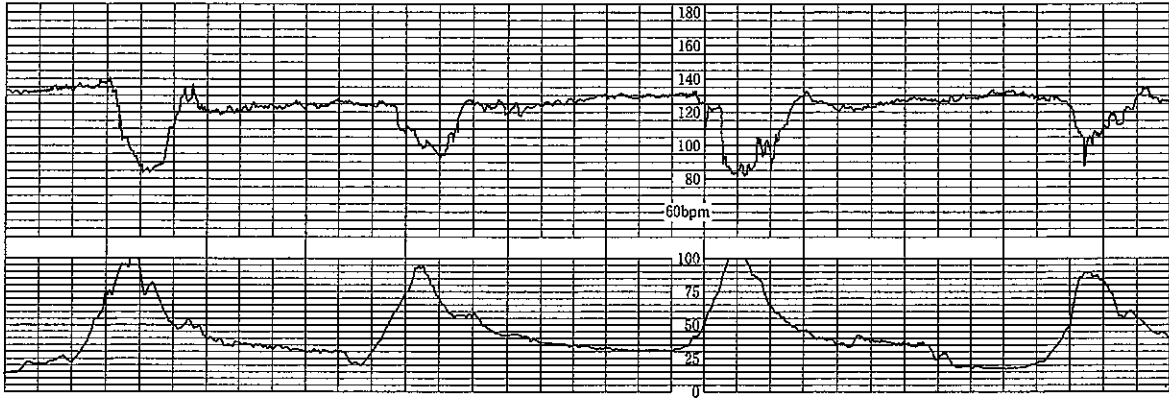
1. 先進部は骨盤潤平面に位置する。
2. 先進部は Station ± 0 である。
3. ホッジの第1平行平面にあたる。
4. 児頭の最大横径周囲は骨盤峽部を通過している。

〔問題 14〕 現時点の分娩予測で適切なのはどれか。

1. 約3時間で子宮口が全開大する。
2. 回旋異常になる。
3. 第一前方後頭位で娩出する。
4. 微弱陣痛に移行する。

〔問題 15〕 子宮口が全開大したところで自然破水した。羊水混濁は見られず流出は少なかった。陣痛発作時自然に努責が起こるようになった。胎児心音は正中で明瞭に聴取できた。以下に胎児心拍陣痛図を示す。

アセスメントで正しいのはどれか。



1. 児頭圧迫による正常範囲である。
2. 遅発一過性徐脈である。
3. 基線細変動の低下である。
4. 心拍数の基線は頻脈である。

次の文を読み〔問題 16〕、〔問題 17〕、〔問題 18〕に答えよ。

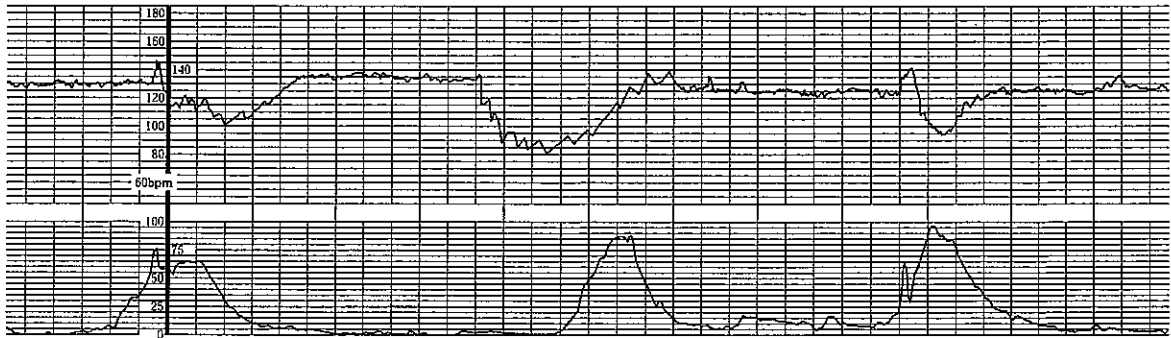
35歳の経産婦。妊娠41週0日。これまで特に異常を指摘されていない。陣痛発来のため午前10時に入院した。第2頭位。入院時の陣痛間欠6分、陣痛発作20～30秒、内診所見で子宮口は後方に触れ、2cm開大、展退度30%、Station -2、頸部は耳たぶの硬さ、入口部やや固定である。

〔問題 16〕 入院時の方針で考えられるのはどれか。

1. 経過観察
2. 機械的頸管拡張
3. 人工破膜
4. 陣痛促進

〔問題 17〕 入院後1時間ごとに、ドップラーによる胎児心拍の間欠的聴診を行った。午後3時現在、陣痛間欠4分、発作40秒、胎児心拍数100bpmである。そのため、CTGを装着した。5分後に図に示す胎児心拍陣痛パターンを認めた。

助産師の最初の対応で適切なのはどれか。



1. 体位変換する。
2. CTG装着を40分間で終了する。
3. 乳頭刺激をする。
4. 入浴してリラックスさせる。

〔問題 18〕 1時間後の内診所見は子宮口5cm、展退度50%、Station +1であり、小泉門を母体後方に触れた。

今後の経過として最も可能性が高いのはどれか。

1. 高在縦定位となる。
2. 低在横定位となる。
3. 前方前頭位分娩となる。
4. 前方後頭位分娩となる。

次の文を読み〔問題 19〕、〔問題 20〕、〔問題 21〕に答えよ。

36歳の2回経産婦。妊娠36週でHb 11.6 g/dl。妊娠38週6日で3,670 gの男児を出産した。児娩出の3分後に胎盤が娩出されたが、子宮収縮不良で暗赤色の出血が約1,000 mlあり、直ちに子宮収縮薬の点滴静脈内注射を開始した。分娩後2時間の出血量は30 mlで子宮収縮が良好なため点滴静脈内注射を終了した。この時の体温36.7℃。脈拍数68/分。血圧126/50 mmHg。分娩所要時間は2時間30分であった。

〔問題 19〕 産褥期に最も予測されるのはどれか。

1. 産褥熱
2. 静脈血栓
3. 子宮復古不全
4. 播種性血管内凝固症候群(DIC)

〔問題 20〕 産褥1日。子宮底は臍下2横指で収縮良好、後陣痛がある。排尿はトイレで行っている。「昨夜はお腹が痛くて眠れなかった」と言う。

対応で最も適切なのはどれか。

1. 直接授乳を中止する。
2. ビタミンやカルシウムを補給する。
3. できるだけ安静にする。
4. 子宮収縮薬の調整について説明する。

〔問題 21〕 産褥 2 日。子宮収縮良好、後陣痛がある。母児同室を開始した。「今回のお産はイメージと違っていた。あっという間に生まれて自分で産んだ気がしない」と言う。

この時の対応で最も適切なのはどれか。

1. 妊娠経過を共に振り返る。
2. 疲労の程度を確認する。
3. 後陣痛の程度を確認する。
4. 出産体験を共に振り返る。

次の文を読み〔問題 22〕、〔問題 23〕、〔問題 24〕に答えよ。

妊娠 39 週に分娩遷延のため吸引分娩で出生した 3,600 g の男児。出生時の心拍数 160/分。啼泣はあり、筋緊張は良好で刺激に反応した。全身のチアノーゼと顔面口腔内に胎便を認めた。臍帯血の Hb 16.0 g/dl、pH 7.20 であった。

〔問題 22〕 出生時にこの新生児に行うべき処置で適切なのはどれか。

1. 口鼻腔吸引
2. 用手的陽圧換気
3. 気管挿管後、気管内吸引
4. 気管挿管後、人工肺サーファクタント投与

〔問題 23〕 生後 30 分。頭頂部に頭蓋骨縫合線を越える膨隆を認め、生後 2 時間後には、膨隆が増大、拡大し、耳朶の周囲も腫脹してきた。体色は白色となり、呼吸数は 80/分、呻吟も認めるようになった。

頭頂部の膨隆として最も疑うのはどれか。

1. 脳 瘤
2. 頭血腫
3. 海綿状血管腫
4. 帽状腱膜下血腫

〔問題 24〕 頭頂部の膨隆に対する助産師の最初の対応で適切なのはどれか。

1. 小児科医に早急に診察を依頼する。
2. 経皮ビリルビンを測定する。
3. 酸素投与で経過観察する。
4. 頭部の膨隆部に冷罨法を行う。

次の文を読み〔問題 25〕、〔問題 26〕、〔問題 27〕に答えよ。

34歳の初産婦。会社員。産褥7日。児は2,980gで出生し、生後5日から体重は増加傾向で、退院時2,880gである。授乳は約10回/日で母乳のみである。乳房緊満あり。児の吸啜は良好で、排尿は9回/日、排便は6回/日。実家は遠方なので里帰りせず、退院後は自宅で夫と2人で育児をする予定である。

〔問題 25〕 退院時の母児の状態のアセスメントで適切なのはどれか。

1. 授乳回数が多い。
2. 新生児の体重増加が不良である。
3. 母乳分泌の増加が期待できる。
4. 糖水を補足する必要がある。

〔問題 26〕 1か月健康診査に来院した。児の体重は3,730g。「子どもがよく泣くので夜何度も授乳します。もう前のようにお乳も張らなくなりました。本当は母乳だけで育てたいんですが」と言う。

母親への対応で適切なのはどれか。

1. 搾乳方法を説明する。
2. 母乳は足りていると説明する。
3. 毎回母乳量を測定するよう勧める。
4. 夜間に人工乳を補足するよう勧める。

〔問題 27〕 この時「疲れて何もする気がしない。眠れないし食欲もない。仕事にももう戻れないかもしれない」とうつむいたまま無表情にぼつりぼつりと話す。

この母親への対応で適切なのはどれか。

1. 早く仕事に復帰することを勧める。
2. 産後1か月ころは皆同じ状況だと伝える。
3. 実家に帰ることを勧める。
4. 保健師への支援依頼について話し合う。

次の文を読み〔問題 28〕、〔問題 29〕、〔問題 30〕に答えよ。

40 歳の診療所勤務の助産師。助産所開業を希望していることを産科 A 診療所 B 医師に相談した。助産所は 3 階建ての自宅の 1 階を改築して 1 年後に開業を予定している。

〔問題 28〕 開業までに法的に準備しなければならないのはどれか。

1. 分娩台の購入
2. 従事者となる助産師の雇用
3. 嘱託医師の承諾
4. 助産所責任保険の加入

〔問題 29〕 自宅を改築する際に医療法施行規則で遵守するのはどれか。

1. 沐浴室の設置階
2. 入所室の広さ
3. 避難階段
4. 待合室の広さ

〔問題 30〕 助産所開業時の広告で適切でないのはどれか。

1. 入院設備あり
2. どこよりも温かいお産
3. 診察時間は個別に対応
4. 嘱託医師はA診療所B医師